



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

人事公募

北海学園大学工学部 教員

1. 募集人員：教授，准教授または講師 1名
2. (1) 所属部門等：工学部生命工学科（一般教育科目担当教員）
(2) 勤務地：札幌市豊平区旭町
3. 専門分野：広い意味での天文学
4. 職務内容・担当科目：

北海学園大学工学部生命工学科では、「生命」と「情報」の融合を目指し、2つの分野にまたがった教育・研究を行っております。今回、上記の学科に所属のうえ、一般教育科目担当として文系を含む全学部の学生が対象の天文学の講義をわかりやすく行える人物を公募いたします。

担当科目：宇宙科学I・II，宇宙科学セミナーI・II，地学実験（天文分野），生命工学総論（各教員の専門分野紹介のオムニバス形式），シミュレーション科学，その他（卒業研究など）

5. (1) 着任時期：2023年4月1日
(2) 任期：なし
6. 応募資格
 - (1) 博士の学位を有する方
 - (2) 大学における研究・教育および大学運営に対して情熱があり、初年次教育も含めた学部生の教育に積極的に取り組む方
 - (3) 上記担当科目を担当できる方
 - (4) 本学の理念および本学科の教育・研究の目的を理解している方
北海学園大学 <https://www.hgu.jp>
生命工学科 <https://eng.hgu.jp/department/life-science-technology.html>
 - (5) 札幌市内もしくは近郊に居住できる方
 - (6) 授業および学内業務を滞りなく遂行するのに十分な日本語能力を有する方
7. 提出書類
以下の書類をA4用紙で提出してください。

- (1) 履歴書（市販履歴書もしくはそれに準ずる様式，写真貼付，現住所，連絡先（電話番号，E-mail），学歴，職歴，賞罰，所属学会など。学歴・職歴欄は高校卒業以降空白のないこと）
 - (2) 教育経験，教育歴および学内運営などに関する実績
 - (3) 業績一覧（学位論文，査読付き論文，学会発表，著書，特許，学会および社会活動，外部資金獲得実績，受賞などに分類する。全著者名を掲載順に記載）
 - (4) 主要論文や著書などの別刷（3編以内，コピー可）
 - (5) 上記主要論文や著書3編の要旨（それぞれ1,000字程度にまとめる）
 - (6) これまでの研究業績の概要と今後の研究計画（A4用紙2枚以内）
 - (7) 大学における教育経験の概要と着任後の教育に対する抱負（A4用紙2枚以内）
 - (8) 応募者に関して意見を伺える方2名の氏名と連絡先
8. 応募締切：2022年8月8日（月）必着
 9. 提出先・問い合わせ先
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40
北海学園大学工学部 生命工学科 教員（天文学）選考委員会 宛
E-mail: astronomy@hgu.jp
応募書類は封筒に「教員応募書類在中（天文学）」と朱書きして，簡易書留で送付してください。
なお，応募に際しては，件名を「天文学人事」とし応募書類を送付した旨の電子メールを上記のアドレスに送付してください。選考後の連絡をいたします。
 10. 応募上の注意：
 - ・書類審査による第一次選考の後，面接による第二次選考を行います。
 - ・面接等の旅費は自己負担になります。
 - ・提出書類に含まれる個人情報，選考および採用以外の目的には使用しません。
 - ・応募書類は返却しません（返却希望の方は，簡

易書留分の切手と返送先を記した封筒を同封してください。

11. その他（待遇など）

- ・雇用主：学校法人 北海学園
- ・給与：当学園給与規程による
- ・勤務時間：当学園就業規則による
- ・保険など：私学共済、雇用保険など

東京大学宇宙線研究所 准教授

1. 募集人員：准教授（テニュアトラック）1名
2. (1) 所属部門・所属講座：重力波観測研究施設
(2) 勤務地：岐阜県飛騨市神岡町
- 3.4. 専門分野・職務内容・担当科目：大型低温重力波望遠鏡KAGRAは初期観測を終え、現在、LIGOやVirgoとの国際共同観測を実行するための準備を進めています。今後は、重力波天文学に貢献するために観測とアップグレード作業を繰り返してゆきます。国際共同観測の成果が効果的に得られるようにLIGOやVirgoと共同で観測スケジュールを設定し、並行して、それに向けたKAGRAの観測体制を整備してゆく必要があります。この役割を中核となって担当し、KAGRAによる科学成果を生み出すことを担う准教授1名を広く求めます。また、本准教授には重力波観測研究施設の運営にも関わっていただきます。
5. (1) 着任時期：決定後なるべく早い時期、
(2) 任期：5年。着任後3年間をテニュアトラック期間とし、3年近く経過した時点でテニュア着任の審査を行い、審査で認められれば任期なしに移行します。テニュアトラック期間中は、研究予算100万円/年のスタートアップ支援をします。
6. 応募資格：雇用の時点で博士号を取得している者。
7. 提出書類：
以下(1)から(5)までの書類を、Eメールに添付（電子ファイル）で提出してください。(6)の意見書・推薦書は、作成者から直接Eメールに添付で応募締切日までに提出してください。応募書類・意見書・推薦書のファイル形式はpdfとします。
(1) 履歴書（博士号の有無・取得見込み、電子メールアドレスを必ず記入のこと）
(2) 研究歴（A4判で3頁以内）
(3) 業績リスト（論文リスト、研究発表リスト等）、及び主要論文別刷（5編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。

(4) 着任可能時期

(5) 着任後の研究計画（A4判で3頁以内）

(6) 意見書または推薦書2通

8. 応募締切・受付期間、

応募締切：2022年7月22日（金）正午必着

9. (1) 提出先：

Eメール application@icrr.u-tokyo.ac.jp

メールの件名に公募番号の「ICRR2022-02」を明記してください。

(2) 問合せ先：

重力波観測研究施設長 大橋正健

電話0578-85-2343

Eメール mohashi@icrr.u-tokyo.ac.jp

10. 応募上の注意

応募書類の提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。

11. その他（待遇など）

選考委員会による書類選考（第一次審査）を行い、最終選考は、面接によります。

(1) 「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。

(2) 外為法等の定めにより、採用時点で、海外との兼業や、外国政府等からの多額の収入がある場合、研究上の技術の共有が制限され、本学教職員としての職務の達成が困難となる可能性があることから、このような場合、兼業等については、本学における研究上の技術の共有に支障のない範囲に留める必要があります。

研究助成

公益財団法人稲盛財団

2023年度稲盛研究助成

真の学問が育つためには多様性と独創性が大切だと考えます。

稲盛研究助成は独創的な研究を行う多様な研究者に対して、1件100万円を助成し、より多くのアイデアの実現可能性を検証する機会を提供します。

本研究助成募集に関する詳細は募集要項にてご確認ください。

稲盛研究助成ウェブサイト：https://www.inamori-f.or.jp/inamori_grants

1. 研究分野

・自然科学系 ・人文・社会科学系

2. 申請資格

自然科学系は2022年4月1日時点で40歳以下、人文・社会科学系は50歳以下で、稲盛財団より募集案内を送付した大学・機関に常勤で正式に雇用されている助教相当以上、主体的に研究を行っている方

3. 募集期間

2022年7月1日（金）～2022年8月31日（水）

4. 申請方法

所定のwebサイトを通じて申請

5. 金額・件数

1件100万円を自然科学系40件、人文・社会科学系10件に助成

6. 問い合わせ先

公益財団法人稲盛財団 助成部
Tel: 075-746-2543
Email: grants@inamori-f.or.jp

**公益財団法人 宇宙科学振興会
2022年度助成事業2件公募のご案内**

公益財団法人宇宙科学振興会は宇宙科学分野における学術振興を目指し、2022年度も引き続き下記の助成事業を行います。それぞれの応募要項の詳細は当財団のホームページ: <http://www.spss.or.jp> に掲載しています。それぞれの公募に対する応募申請に際してはホームページご参照の上、申請書をダウンロード・作成いただき必要な書類を添付の上、財団宛に電子メール (admin@spss.or.jp) で申請下さい。奮ってご応募いただくようご案内申し上げます。

(1) 国際学会出席旅費の支援

●支援対象

宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者（当該年度4月2日で35歳以下）、またはシニアの研究者（当該年度4月2日で63歳以上かつ定年退職した方）で、国際研究集会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している方。海外で開催される国際学会に限る。リモートでの参加の場合でも参加費（上限5万円）については支援。

●助成金額・件数：一件あたり10～30万円程度、年間10件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2022年8月31日：2022年10月1日～

2023年3月31日の間に開催初日が予定される学会対象

応募締切り2023年2月28日：2023年4月1日～2023年9月30日の間に開催初日が予定される学会対象

(2) 国際学会開催の支援

●支援対象

宇宙科学研究を推進している国内の学術団体（研究所、大学等）で、宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する国際学会、国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。リモートでの開催も支援対象。

●助成金額・件数：一件あたり20～50万円程度、年間4件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2022年8月31日：2022年10月1日～2023年3月31日の間に開催初日が予定される学会対象

応募締切り2023年2月28日：2023年4月1日～2023年9月30日の間に開催初日が予定される学会対象

●照会先

公益財団法人宇宙科学振興会事務局
<http://www.spss.or.jp>
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1
Email: admin@spss.or.jp
Tel: 042-751-1126

研究会・集会

2023年 IAU「アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議」日本開催について

日本学術会議物理学委員会 IAU分科会委員長
渡部潤一

国際天文学連合（IAU）は、3年に一度の全体総会（General Assembly）を開催すると共に、中東、ラテンアメリカなど地域毎の地域会議を3年ごとに開催してきました。このうち、アジア太平洋地域での地域会議であるAsia-Pacific Regional IAU Meeting（APRIM）は、1978年に第1回がニュージーランドで開催されて以後、回数を重ね、地域会議の中では最大規模となっています。これまで日本は、1984年の第3回京都大

会、および2002年の第8回東京大会と、過去2回の開催実績がありますが、その後、しばらく開催してきませんでした。そのため、日本学術会議物理学委員会IAU分科会で招致について議論を続け、第24期第6回のIAU分科会（2019年7月19日）において、2023年の開催地に立候補することを正式に決定しました。分科会長である渡部潤一が招致責任者およびLOC委員長となることとなり、国内の誘致先は復興支援の観点からも福島県にすることも推奨されました。誘致に向けてLOCを構築する中で、新型コロナウイルスの感染拡大のため、2020年夏にオーストラリア・パースで開催予定だった第14回APRIMは中止されました。現地で開催予定であった次回招致に向けてのコンペは延び延びになっていました。われわれLOCは福島県郡山市コンベンションビューローの協力を得ながら、日本天文学会、日本プラネタリウム協議会、日本公開天文台協会、日本天文教育普及研究会などの天文学関連団体や、公立大学法人会津大学、日本大学工学部（郡山市）等の支援のもと、2021年4月のオンラインでの招致コンペに望みました。なお、招致コンペの審査員は慣習に従い、2020年開催予定であったAPRIMのSOCメンバー（16ヶ国22名）でした。その結果、複数の立候補地の中から日本が選ばれ、招致に成功しました。現在、SOCおよびLOCを立ち上げ、会議開催の準備を進めている段階ですが、以下にAPRIM2023の概要とスケジュール（案）をお知らせし、会議成功のために日本天文学会員の皆様のご協力とご参加をお願いします。

2023年アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議（APRIM2023）の概要

主催・共同主催：国際天文学連合、日本学術会議（予定）、会津大学、日本天文学会

後援：国立天文台、宇宙航空研究開発機構、日本大学工学部、福島大学、日本地球惑星科学連合、日本惑星科学会、日本物理学会、郡山コンベンションビューロー、日本公開天文台協会、日本天文教育普及研究会、福島県ほか

会期：2023年8月7日(月)～8月11日(金)

会場：福島県郡山市「ビッグパレットふくしま」

会議形態：ハイブリッド開催を予定

会議内容：複数の分科会、全体会、ポスターセッションによる天文学の研究発表・招待講演、天文教育・若手研究者の養成、研究者の交流、今後のAPRIMについて、等（なお、この会議の前後にサテライト・ミーティングの開催も考慮する）

今後のスケジュール(案)

2022年7月 会議開催のアナウンス（第一回アナウンス：IAU総会に合わせて）
2023年1月 参加登録、論文受付開始（第二回アナウンス）
2023年3月 発表論文投稿〆切
2023年4月 早期参加登録〆切
2023年6月 プログラム決定・公開（第三回アナウンス）

会務案内

2023年度国内研修支援金（旧内地留学奨学金）の希望者の募集

国内研修支援金は、日本国内の大学や天文台などの研究機関で研究者の指導を受けて研究活動を行う際の消耗品・旅費等の経費の支援をするものです。

日本天文学会会員でアマチュア天文研究者、学校の教員、科学館・プラネタリウム・公共天文台などの社会教育施設の職員およびこれらを退職されたシニアの研究者が主な対象です。学生の応募も可能です。

過去の支援金（旧奨学金）の対象となった研究テーマは、学会ホームページの学会の活動から研究・旅費助成⇒国内研修支援金⇒参考：国内研修支援金受給者一覧のボタンで見ることができます。

(<https://www.asj.or.jp/jp/activities/expenses/kensyu/recipients/>) に掲載されています。

なお、研究内容にふさわしい機関や指導者がわからない場合は、早めに国内研修支援金選考委員長にご相談ください。多くの方々のお待ちしています。

〈募集要項〉

応募資格：応募時点で日本天文学会会員であること（内規第3条）。

採 択 数：若干名

研修期間：2023年4月から2024年3月までの12カ月のうち希望する期間。受入研究機関、指導教員（受入研究者）と相談して決定してください。研究終了後、2カ月以内に研究報告書の提出をお願いいたします。

支 給 額：25万円以下。支給は2023年4月を予定。

申 込 み：応募申請書に必要事項を記入し、〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内日本天文学会事務長あてに郵送、または電子ファイルをjimucho@asj.or.jp あてにメール送付してください。

応募締切: 2022年8月31日(水) 必着.

審査: 国内研修支援金選考委員会(内規第5条)で審査のうえ, 決定し, 10月中旬に通知します.

採択された場合: 研修終了後には研修成果報告書を必ず書いて提出してください.

応募用紙: 日本天文学会事務所にあります. 申請書の書き方例もありますので, 事務所にご請求ください. 学会ホームページ(「研究・旅費助成」の「国内研修支援金」のページ中: 募集と応募申請の項目, <https://www.asj.or.jp/jp/activities/expenses/kensyu/>)からもダウンロードできます. なお, 国内研修支援金に関する内規は学会ホームページ(「定

款・細則・内規」のページ中, <https://www.asj.or.jp/jp/about/articles/#naichi>)に掲載されています.

ご相談・問合せ先: 国内研修支援金選考委員長
内藤博之
e-mail: naito@nayoro-obs.jp

訃 報

会員の川畑周作氏は2022年4月27日に逝去されました. 満93歳でした. ご冥福をお祈り申し上げます.

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2022

パスワード: 雑誌コード(5桁の数字)と **vol115**(6文字)の計11文字を入力してください. 「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○▲」の○○○○○の部分です. ○○○○は各号共通の数字です.

編集委員: 江草芙実(委員長), 市川幸平, 岩井一正, 岩崎一成, 小高裕和, 小野寺仁人, 嘉数次人, 勝田哲,

川中宣太, 津村耕司, 西澤淳, 西塚直人, 秦和弘, 福井暁彦, 仏坂健太, 前原裕之

令和4年6月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6 株式会社 国際文献社

定価733円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359(事務所) / 0422-31-5488(月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <https://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます.

©公益社団法人日本天文学会2022年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)